

平成 22 年度中野区新指定文化財



名 称 中野区指定有形文化財(絵画)「江古田獅子舞巡行絵巻」歴史民俗資料館蔵
1巻

形 状 217cm×29.3cm 紙本 軸装

制作年代 江戸時代末期

来 歴 旧江古田村名主家である山崎家に残されていたもので、弘化4年(1847)に江古田氷川神社神楽殿の天井格子絵を描くために山崎家に逗留した絵師が描いたものと伝えられています。

絵画としての特徴

構図全体から見て、鑑賞用絵画としてではなく記録を重視した絵画と考えられます。絵巻の中心画題である獅子舞行列部分の表現は四神を先頭に花笠にはさまれて獅子が描かれている様子は、現代まで継承されています。この部分の描き方は全体的に安定性があり、細部の表現にも注意が払われています。

細やかな筆致、抑揚のない細線は専門絵師の筆によるものと考えられますが、流派などを特定できる特徴は認められませんでした。

しかし、当時の農村地帯における伝統芸能の様子を正確に記録している点は類例を見ないもので、絵画資料ばかりでなく民俗資料としての価値は高いものです。